巻頭言

Jネット会長
和久井博

「盲亀の浮木（もうきのふぼく）、優曇華（うどんげ）の花、ここで会ったが百年目！」と言うのは時代劇などで、探し求めていた仇と出会ったときの有名なセリフ。優曇華の花は三千年に一度しか咲かないと言うから、殆ど起こらない偶然を意味しているようだ。百年は永久と同じ意味で、香港の租借が九十九年間になっていたのは、百年を『永久』と考えていたためだ。しかし実際に九十九年がたってしまい、英国が歯ぎしりするも本当に返還されてしまった。

今年の上越は、その百年目に当たるイベントが目白押しである。

今から百年前の明治四十三年（一九一〇）、高田に師団長官舎が建築され、高田の朝市「二・七の市」と「四・九市」が高田の陸軍十三師団の兵隊に新鮮な野菜を食べさせたいと言う要望で開催された。翌年の一九一一年には金谷山でレルヒ少佐によるスキー指導が行われ、日本最古と言われる映画館の高田世界館が開業し、高田が市政を施行した。上越市では、今年から来年にかけて、百周年記念イベントが多数企画されている。

百年前の新潟県の人口は約百三十万人で東京、大阪、兵庫、愛知についで全国で五番目であった。新潟は明治三十一年に東京に抜かれるまでは、日本で一番人口が多く、非常に元気があった。

東京新潟県人会は明治四十三年に発足したもので、今年で丁度百年になる。これを機会に新潟を元気にしようと言うことで、新潟県と東京新潟県人会が協賛で、今年の九月二十五日（土）、二十六日（日）に新潟市の朱鷺メッセに於いて「大新潟県人祭」を開催する。「にいがた大物産展」「新潟県人会と県民の大交流会」「芸能大会」「特別公演・オペラ夕鶴」「米村でんじろうサイエンス教室」「朗読コンサート」「講演会」など多彩な催しが行われる。入場は無料だが、イベントには事前に往復葉書で申し込む必要がある。また、トヨタのプリウスが当たる大抽選会もある。

先日、「天恵楽」と言う美味しいお酒に出合った。製造元は「㈱よしかわ杜氏の郷」とある。春の交流会で立ち寄った道の駅にあった酒蔵だ。上越市の資本が入っていて確か副市長が社長をやっている筈だ。この前行った時の話では、上越地域では新参なので中々営業がやりにくいらしい。そりゃそうだ。税金が入っているのだから民業圧迫と言われかねない。このようなお酒は東京で販売するに限る。Jネットの監査役の安島さんに酒販のノウハウを聞いて、是非、上越のお酒を世の中に広めたいと考えている。